

令和 4 年度小松市立荒屋小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	〈児童会活動を通して、よりよい人間関係を築く〉		
	・児童主体で学級会を行い、毎月の生活目標に対して具体的な行動目標を設定し、月末に振り返りを行う。 ・異学年交流や感想等の交流を積極的に行い、いろいろな人から認められる場を設けることで、自己有用感を高める。 ・教職員は、学年問わず、いろいろな児童を認め、励ますプラスの声掛けを意識的に増やす。		
特別支援教育	〈児童の生活の様子や学習状況等の情報交換を密にし、個に応じた適切な支援を行う〉		
	・気づき票により支援が必要な児童を把握し、共通理解する。 ・学習支援が必要な児童を把握し、特別支援教育支援員等と協力し、可能な限り必要な支援が行き届くようにする。 ・情報交流を密にし、必要な場合は校内委員会を開催したり専門相談につなげたりする。		
道徳教育	〈道徳性の涵養〉		
	・学校重点指導内容「親切・思いやり」と学年重点目標「善悪の判断、自律、自由と責任」を設定し、各学期それぞれ1回指導する。 ・保護者に対して道徳の授業を公開するか、または保護者と児童が道徳の内容について共に考える機会を設定する。		
読書教育	〈読書の質的な向上を図る〉		
	・「本のとびら」や「よんでよんで」の本を活用し、読書量を上げる。 ・「読書郵便」や「読書祭り」など、読書の幅を広げる取り組みを行う。		
保健安全教育	〈自ら考え、健康で安全な行動をとろうとする態度の育成〉		
	・生活習慣アンケートを取り、問題点を改善できるよう学校保健委員会などを通して呼びかけを行う。 ・避難訓練3回(火災・地震・不審者)を行う。 ・集団下校訓練、交通安全教室を行う。 ・教室、廊下、運動場など、場所ごとの安全な行動を啓発する呼びかけを行う。		
情報教育	〈児童自身がICTを含む様々なツールを駆使し、自在に使いこなせる力の育成〉		
	・1人1台端末を有効活用し、発達段階に応じて学びの質を向上させるとともに、情報モラル教育を充実させ、正しく使う意識を涵養する。 ・「日常的な活用」を積み重ね、「効果的な活用」を目指す。 ・研修会を通して、教師のICT活用指導能力を高める。		
家庭・地域社会との連携	〈信頼される学校づくり〉		
	・各種「たより」を定期的に、また必要に応じて適宜発行し、情報の公開や、発信に努める。 ・学校HPやメール配信を活用し、保護者や地域住民等と教育活動の共有を図る。		

学校関係者評価	
---------	--